



編集・発行：高等学校韓国朝鮮語教育ネットワーク

事務局：163-0726 東京都新宿区西新宿 2-7-1 新宿第一生命ビル26F 国際文化フォーラム内
tel. 03-5322-5211 fax. 03-5322-5215 e-mail. forum@tjf.or.jp

地域ごとのネットワーク活動

昨年8月に設立された高等学校韓国朝鮮語教育ネットワークは、これまでにどんな活動をしてきたのでしょうか。地域ごとに集まりが持たれ、地道な活動を展開してきました。各地域の特性を反映しながら、ブロックごとの活動が定着しています。各ブロックからの報告を本紙の2～5ページに載せました。なお、国際文化フォーラムの機関紙(No. 45、1月発行)にネットワーク設立前後の動きをまとめているので、ご参照ください。

1999年10月から2000年2月の活動【会場】

- 10月9日 第1回西日本ブロック交流会
[大阪府立阪南高校]
- 10月9日 第1回東日本ブロック交流会
[国際文化フォーラム(TJF)]
- 11月20日 南日本ブロック通信の創刊(B5判10p)
- 11月28日 西日本ブロック「学習のめやす」研究会の活動始まる[ジョア・ハングル研究所]
- 12月12日 第2回西日本ブロック交流会[阪南高校]
- 1月22日 第2回東日本ブロック交流会[TJF]
- 2月11-12日 第1回南日本ブロック交流会
[熊本県立菊池農業高校]
- 2月26日 第3回西日本ブロック交流会[阪南高校]

組織としての基盤作り

これまでの動きをふり振り返りながら、ネットワークの今後を展望してみたいと思います。仮に、向こう5年間ぐらいを組織の基盤作りの時期とみなすのはどうでしょうか。そ

のための事業として、試みに次のことを考えてみました。みなさんのご意見、コメントを歓迎します。

1. ブロック内の交流とブロック間交流の活発化をはかる
2. 西日本ブロックの「学習のめやす」、東日本ブロックの「基本語彙」プロジェクトをネットワーク全体で推進する
3. 高等学校韓国語教師研修会の運営主体として、研修会を通じて組織の基盤作りを行う
4. 韓国朝鮮語教育に関する拠点の一つとして、ネットワークを定着させていく
5. 韓国朝鮮語教育に関係する他のグループとの提携の可能性をさぐる

韓国朝鮮語という原点

韓国朝鮮語をよりどころにして、英語に偏した高等学校の外国語教育に風穴を開ける。私たちの活動はそんなことをめざしているのではないのでしょうか。ネットワークの事業が、これまでとは異なる語学教育の座標軸(韓国朝鮮語が原点の一つ)を提供し、地域の特性に根ざした活動が新たな波紋(물결)を全国に伝えていくことができると思うのです。個々人のつながりと地道な活動の積み重ねこそが、それを可能にしていくのだと思います。

みなさんの活動や授業実践例、ネットワークに対するご意見などをお寄せください。その一つ一つが会報を作っていきます。当面は年2回の刊行を予定していますが、原稿の集まりしだい増減したいと思います。ブロック交流会の場で発表したり、ブロック代表に伝えたり、事務局宛にメールをお送りいただければ幸いです。

■第1回西日本ブロック交流会：

任喜久子 임희구자 (大阪府立阪南高校)

長い韓国朝鮮語教育の歴史と豊富な人材

昨年10月9日、大阪の府立阪南高校で第1回の西日本ブロック交流会が開かれました。総勢28名が参加した交流会は終始にぎやかに、また真剣に意見交換が行われ、有意義な1日となりました。今回は、府立佐野工業高校定時制の林章子(임장자 イム・チャンジャ)さんと、府立住吉高校ほか4校に勤務(!)する鄭一珠(정일주 チョン・イルジュ)さんの授業実践交流報告がメインでした。林(イム)さんからは、常勤が二人いる佐野工業高校のカリキュラムや選択生徒の募集方法、実際の授業の教材等について報告がありました。鄭(チョン)さんは模擬授業を行い、明るくも厳しい(?)ソンセンニム(先生)のもと、参加者一同生徒に戻って、実際の授業のようすを体験しました。

授業実践交流の後、活発な意見交換を行いました。教員免許の問題、どうすれば楽しい授業になるか、韓国朝鮮語担当以外の教師や学校の体制の問題、定時制高校での授業、人権教育との関わり、学習内容の進度や教材など、テーマは多岐に亘りました。熊本から応援に駆けつけた馬場さん(南日本ブロック代表)や小栗さん(フォーラム)、大阪外国語大学朝鮮語学科の学生たちからも頼もしい発言がありました。話は尽きませんでしたが、今後の活動として次のことを決めました。

- (1) 授業実践交流を基本にした交流会を定期的に持ち、実践を積み上げていく。
- (2) 年間授業計画を共通のフォーマットで作成する。それを集約して、「授業のめやす」又は「ガイドライン」の土台作り作業に着手する。メンバーは長谷川由紀子、左美和子(좌미화자 チャ・ミファジャ)、康龍子(강용자 カン・ヨンジャ)、方政雄(방정웅 パン・ジョンウン)、任喜久子の5名。
- (3) 各自・各学校が所有する教材や教具(ビデオ等の視聴覚教材や民族楽器等)のリストを作成し、利用可能なものをお互いに融通し合う。
- (4) 特に「事務局校」は定めなくて、ブロック代表が連絡調整役を果たすことにする。

全国ネットワークの関連では、次のことを決めました。

- (1) 修正会則案の承認*
- (2) ブロックごとに年会費を徴収(ブロック代表が管理し、年度末に全国ネットワークに報告する)
- (3) 第1回交流会の参加者全員をネットワークに登録
- (4) 1999年度の西日本ブロック代表に、方政雄と任喜久子の2名を選任

西日本ブロック初の交流会で、少し不安もありましたが、思いがけず多くの懐かしい顔がそろい、後の懇親会も含めて忙しくも楽しい時間を過ごすことができました。あらためて西日本ブロックにおける韓国朝鮮語教育の歴史の長さ、人材の豊かさに感心しました。この力強い仲間と、人と人のつながりを大切にしながら歩んでいきたいと思います。みなさんががんばりましょう。

*東・西日本ブロックの第1回交流会で修正案が承認され、南日本ブロックでは事前に会員個々に連絡し、了承されていたので、昨年10月9日をもってネットワーク会則発効とみなします。(本紙10ページ参照)

■第2回西日本ブロック交流会

方政雄 방정웅 (兵庫県立湊川高校)・任喜久子

交流会のプログラム

1. はじめに
 - ・ネットワークの全国各ブロックの動き等について
2. 授業実践交流〔報告者〕
 - ・李兪知(이유지 イ・ユジ 大阪府立西成高校)
 - ・康龍子(私立帝塚山学院泉ヶ丘高校)
3. 「学習のめやす」研究チームから
 - ・韓国朝鮮語授業アンケートについて
4. その他
 - ・韓国朝鮮語授業に関する視聴覚教材リストについて
 - ・会費の使用用途等について
 - ・次回交流会について

確認事項

—「学習のめやす」研究チーム・・・名称が「ガイドライン」や「授業指針」等いろいろありましたが、「学習のめやす」という名称で一応の合意を見ました。「授業」よりも「学習」の方が受け皿が大きいように思います。

一 会費の使用用途等について・・・基本的にはブロック活動をする上での必要経費を保障する方向で合意を見ました。当面は 1. 「学習のめやす」研究チーム活動の会合のための交通費等、2. ブロック交流会のための通信・連絡費等、3. 授業実践報告等に関する(コピー等)必要経費

一 アンケートやリストは次回交流会までの各自の宿題で、記入して持参のこと。

一 第3回は2月26日(土)、14時より、場所は同じく阪南高校です。

1. 左美和子(大阪府立佐野工業高校)
2. 鄭奈美(정나미 チョン・ナミ 尼崎市立尼崎高校)
3. 特別実習授業(?!)鄭一珠(大阪住吉高校等)・・・色紙でチマチョゴリ人形を作る。

安準模さん(안준모 アン・ジュンモ 白頭学園)は音楽がご専門の本国から来られた先生で、是非授業で使える音楽教材の開発とその模擬授業を第4回の交流会でという話が出ました。楽しみです。

・個人的(方)に思っていますが、この「授業実践報告」をある量が揃えば何らかの形にまとめて公表し、みんなの財産にできればなあと思っています。

第2回の西日本ブロック交流会は、前回にも増して熱気ある報告と討議で盛り上がりました。

参加者は、康龍子、鄭一珠、劉栄純、鄭良二、鄭奈美、登尾明彦、安準模、文東載、林章子、李兪知、左美和子、長谷川由紀子、大阪外大生4名(瀬良知紀、大塚大輔、朝長綾、原香里)、方政雄、任喜久子の18名でした。二次会には李スギョン(이수경)さんも駆けつけてくれました。

授業実践交流

今回の授業実践報告もかなり、気合い(?)が入っていました。西成高校の李兪知さんは、生徒に韓国語を絶対勉強させるんだという熱意に満ちた報告で、授業の教材(プリント)の完成度がかなり高く、とても感心しました。何と言っても、プリントがすべてワープロ打ちの美しさに感動です。

私(任)の場合、定期考査はさすがにワープロで作りますが、その他の授業のプリントは、手書きで精一杯。さらに、彼女のすごいところは、長期休暇中(春休みと

か、夏休み等)に、次学期の中間考査ぐらいまでの教材プリントを完成させているという点です。だいたいの計画は立てているけど、実際に使うプリントは、1週間ぐらい前かな? ひどいときは、「ところで明日何しよう? 」と言う日も! 私も、2科目4単位の複数講座だけだったら、できるかも・・・と自己弁護しつつ、でも大いに感心しました。また、口頭での反復練習に、独自のリズムをつけて、ほとんど「お姉さんと遊ぼう」と言う雰囲気、楽しく授業をされているようでした。

一方、帝塚山学院泉ヶ丘高校の康龍子さんの報告は、生徒たちをどこまで伸ばし、どこまでしっかり教えるかという報告でした。毎回の小テストに加え、学期最初の「単語100問テスト」には、ちょっと大丈夫? と言う心配が頭の中をよぎりましたが、教えれば教えるほど、生徒もがんばってついて来るし、また、授業の合間に、こちら「悩み相談のお姉さん」になって、何と2学期最後の授業で調理実習をした後、3年の生徒たちから「先生、いろいろしてくれてありがとう」と、花束をもらったそうです。教師と生徒の人間関係がしっかり作れているなという感じがしました。

それ以外にも、韓国語か朝鮮語かなどの名称の話しや、テキストやビデオ教材、助詞の「～는・은 ～ヌン・ウン」と「～가・이 ～ガ・イ」をどう教えるか等、話題はつきませんでした。

■第1回東日本ブロック交流会

黒澤真爾 (自由の森学園ほか韓国語講師)

去る10月9日、東京新宿の国際文化フォーラム会議室で東日本ブロックの第1回ミーティングが行われました。フォーラム事務局の中野さんを含め15名の参加者がありました。初めての会合で、議事進行などどこちないところもありましたが、会で話し合われた内容について簡単にお知らせします。

まず、議論の呼び水として、2名の会員から事例の報告がありました。はじめは、都立日比谷高校(ハングル講師)の増田先生から、ふだんの授業でどういったところに気をつけているか、具体的な教材等を提示していただきながら報告していただきました。ほとんどの学校がそう

だと思いますが、選択授業の場合、いかにして学生の関心を持続させるかに、多くの神経を使わなければなりません。「面白くなければ出ないよ」と、公言してはばからない学生たちを引っ張っていくのは至難の技で、1回ごとの授業がそれこそ真剣勝負です。増田先生の報告からは、少しでも多くの学生に、語学や異文化を学ぶことの楽しさや充実感を伝えようとする熱意が、とても感じられ刺激になりました。

次に私(黒澤)が、本年4月の開講をめざして準備を進めている関東国際高校の韓国語コースの現況について報告をしました。初年度(2000年)は定員20名で募集をし、週に6時間の授業を行なっていく予定ですが、なにぶん前例がないだけに、カリキュラムや教材、授業の目標設定など、試行錯誤をしながらの1年になるのではないかと思います。

たがいのニーズを探り出す

2名の報告の後、自由なディスカッションに移りました。主な議論の内容は次のとおりです。

1. 何のために韓国語の講座を行なっているのかについて、講師各人の立場表明が必要ではないか。その上でガイドラインなど、具体的な話しをしよう。

—文化理解を主たる目的とするのか

—語学教育としての目標を設定するのか

2. 正しい発音を教えたいが、生徒がついてこれずに困っている。どうしたらよいか。

—正確な発音にこだわらず、ネイティブが何とか聞き取れる程度を目標にしたらどうか

—思いきって、直接会話の授業を行なってみるのも効果的

3. 講師の質の向上も含めて、簡単なガイドライン作成に取り組むことはできるか。

—各学校のコース設置状況が多様で複雑な上に、各講師の置かれている状況も一概ではないため、難しいのではないだろうか

などなど、会終了後の懇親会においてもとりとめもなく、さまざまな意見が交わされましたが、講師間の情報交換のレベルから一歩抜け出して、ある目標に対して動き出すまで、もう少し意識的にたがいのニーズを探り出すワークショップが必要なのかもしれません。

皆さんの意見を聞いていると、会員のニーズがいくつかに分かれているように思われましたので、メモしておきます。

(1) もっと優秀な先生になりたい! — 教授法に対するニーズ

(2) もっと韓国語の講座を増やしたい! — 普及・啓蒙活動の充実

(3) 講師の立場を向上させたい! — 職場環境の改善
最後に、今回の議題と次回までの宿題を次のとおり確認して解散となりました。

・各講師が毎年行なう年度の最初の授業プラン

・高校での授業の基本単語

■第2回東日本ブロック交流会

金京子(神奈川県立神奈川総合高校ハングル講師)

交流会のプログラム

1. 1年間の授業の導入をどう行うか [参加者全員]

2. 基礎語彙表の作成 [黒澤]

3. 西・南日本ブロックの活動報告

4. 東日本ブロックの今後

日時: 1月22日(日) 14:00 ~ 18:30

場所: 国際文化フォーラム会議室

出席者: 阿部宣姫、内山修一、太田剛、金京子、黒澤真爾、武井一、秋賢淑、西澤俊幸、阪堂千津子、増田忠幸、山下誠、柳虎順(五十音順) ほか計14名

第1回の交流会に参加できなかった報告者(金)としては語る資格はないのかもしれませんが、あえて言わせていただくとすれば、今回の第2回交流会はあるべき交流会の姿に限りなく近いものだったのではないかと思います。3時間を超える話し合い(休憩なし!!)、授業導入の仕方、生徒募集の方法や悩みなど、あまりにも膨大な内容のため、ここの報告では全て書ききれません(私の能力不足によるのでしょうか)。改めて別の形でまとめることができたらいのではないかと思います。ポイントのみ、報告いたします。

関東甲信越・東北・韓国

まずなにより、今回のブロック交流会における一つの成果は関東甲信越と東北地方との連携の手がかりができ

たことではないでしょうか。今までは関東近県という狭い範囲でのつながりで(98年の高等学校教師研修会には東北地方から3名、99年の研修会には北海道から1名の参加がありました)、参加する人間もある程度固まりつつあったところに新たな風を吹き込んだのが、岩手県立花巻南高校の阿部さんでした。また、長野県立明科高校において書道の授業に「ハングル書道」を取り入れているという太田先生からの報告はとても刺激的(!)で、私たち自身も非常に啓発される内容でした。山梨県立塩山高校中国語講師の内山先生からのご意見、韓国から日本語教師の研修のため来日している柳虎順(유호순・ユ・ホスン)さんのご参加も大変励みになりました。

花巻南高校からの相談及びそれに基づく話し合いの結果の大筋は以下のようです。花巻南高校(阿部)がコーディネーターとなって、本年4月から韓国語専門コースを開設する関東国際高校(黒澤)と韓国の安養(안양・アニャン)外国語学校との提携事業が実現するように働きかける。安養外国語学校には日本語科があり、毎年夏休みに日本を訪問するが、その際にホームステイや日本の高校生との交流を希望していて、関東国際高校の計画と合致する部分があるとのこと、これら高校間の交流事業を、ネットワーク東日本ブロックとして支援していく、ということになりました。

また、高校生交流は盛んになっていて、公共団体ばかりでなく民間会社が資金を出すものもある。その際、交流プログラムにネットワークとして関与できるのではないかと意見や、今、日韓文化交流基金の招聘で来日中の高校生訪日団は二日程度、桜美林高校(たまたま、メンバーのムン・ジュンヨプさんが韓国語を教えている)との交流を行うが、たとえばその受け入れをネットワークに参加している数校の教員と生徒で請け負うという手もあるのではないかなどという、かなり具体的且つ広範囲な、ブロックとしての活動の展開が期待できるような意見が出されていたことも付け加えておきます。

基礎語彙表の作成

プログラム2の基礎語彙表の作成については、関東国際高校の黒澤先生からの提案により、高麗大学のテキストの語彙500語を抜き出して、この500語を重要度によってA・B・C・Dの4段階に分類し、そこからDランクの

ものを除いた300~400語をピックアップした後、その300~400語の一覧表を東日本ブロックの各メンバーに送付し、各自の観点でA~Cにランク付けをする、その結果を集約していく、という作業を東日本ブロックとして実施しようということになりました。[ランク付けとともに授業で取り上げているかどうかチェックすることにした]

パソコン通信上のネットワーク広場

最後に、東日本ブロックの今後について、2000年度分として東日本ブロックの会費を徴収したいというブロック代表からの提案とかかわって、今後の東日本ブロックの活動の方向性、ネットワークに参加する意義やネットワーク事業の目的について、改めて確認するという場面がありました。会員個々が韓国朝鮮語の授業に関して持っている悩みや問題点を出し合い、他の会員がそれに対して自分の経験や学校の事例に基づいた感想や意見をやり取りできる場、韓国朝鮮語の授業に役立つ実践例やアドバイスを交換できる場を提供することがネットワークの担うべき役割であるという考えで一致し、具体的にそれを実現していこうと、なんと3日後の25日深夜から、パソコン通信上での「ネットワーク広場」(?…仮称)が設立されました。この「広場」についての詳細・補足説明は別途設けられると信じ、細かい説明は省きますが、私個人としての感想は、東日本ブロックのみなさんの熱意と勤勉ぶりにただただ感服(!)です。

会費の徴収についてはその場で合意が得られ、2000年度分として出席者全員から徴収しました。

次の交流会：8月の研修会に向けて

3月26日(日)14:00-17:00 国際文化フォーラム

議題：8月の「第3回高等学校韓国語教師研修会」のプログラム検討(2月の南日本ブロック交流会でブロック代表がまとめる予定の研修会プログラム案を基に研修会の主管ブロックである東日本ブロックとして検討する)、基礎語彙表の作成についてほか。

동일본 블록 열려선생님 수고들하셨습니다.そして、まだお会いできていない、でも必ずお会いできると信じている関東甲信越、東北、北海道の同じ志と悩みをお持ちの 동지 여러분들! ぜひ一度お会いしませんか。ご連絡、お待ちしております。私たちと一緒に、韓国朝鮮語教育の未来を創っていきましょう!



宗像由記
(大阪外国語大学
朝鮮語学科
4年生)

私は大学で朝鮮語を専攻し、韓国に1年間留学してきました。なぜ朝鮮語を専攻したのかという質問を多々受けてきたが、このこと自体、朝鮮語がいまだに日本で市民権を得ていないことを示している。経済学や英文学専攻なら、その動機をそれほど問われないであろう。

「朝鮮」のことに深く関わっておられる方からの質問であれば、私はことばを選んでその問いに答えなければいけない。私自身、いまも日本社会に残っている「朝鮮問題」を知り、それに立ち向かおうとして朝鮮語を選んだのではなく、外国の一つとして「朝鮮」のことを知りたいという、いわば今ふうの軽い動機だったからである。だが、日本で朝鮮語に関わっている方々との出会いや韓国留学中の経験を通して、日本で「朝鮮」のことを広めたいという思いに駆られるようになっていた。

そのような思いが、昨年9月に兵庫県の湊川高校で行なった教育実習を通じて、確固たるものになった。私は、湊川高校が日本の高校ではじめて朝鮮語を開講した歴史ある学校だということさえ知らずに、恐れ多くも教育実習校を決めてしまっていた。実習に行くまでは、そこが定時制高校ということもあり、構えていた部分があった。進学校なら、受験科目でない朝鮮語に、どう生徒たちの興味を引きつけるか、むずかしいところである。定時制高校は、生きていく知恵とでもいうべきものを付けるところだと思う。そこで朝鮮語という教科を通じて人生における考える力や何事にも意欲的に取り組む姿勢をどう付けるかが、大きな課題だったように思う。

朝鮮語という教科以前に、そのようなものがどれほどだいたいかを痛感した。受験に関係ない教科だからこそ、できる何かがあるということもわかった。年配の生徒も少なくない湊川高校のなかで、生徒は自然に思いやりを身に付けていっていると思った。生徒は、いたってのびの

びしており、先生方も生徒の気持ちを尊重している。「人対人」の同等の人間関係がとても印象的だった。教師という権力を振りかざして生徒に押しつけるのではなく、共に成長していくことが基本だと思った。

小学生のときから、私は教師志望であった。よき先生に恵まれたからだと思う。そして、高等学校韓国朝鮮語教育ネットワークを通じて、たくさんの先生方との出会いがあった。いつの日か、教壇で朝鮮語を教えるときに手本にできる先生ばかりである。

過去を知ったうえで、今後の日本と韓国・北朝鮮との関係、日本のなかの「朝鮮問題」、そして朝鮮語教育を模索していきたいと思っている。そのとき、このネットワークはとても頼もしい存在である。みなさん、これからよろしく願いいたします。

時間を忘れて野球談義



宮山忠
(南京都学園)

南京都学園は、1986年8月5日に韓国のソウルにある沖岩(충암 チュンアム)学園と姉妹校となり、両学園に学ぶ若者が、修学旅行をはじめ、スポーツ交流や文化交流を通じて、真の理解と友好を深めている。私が1年間(88年)交換教師として韓国へ派遣されたのも、沖岩高校で韓国の高校生と一緒に勉強したり、スポーツをしながら肌で感じたことを南京都学園の生徒に伝え、双方の違う文化と生活のなかに、それぞれかけがえのない尊い歴史や必然性があることを知り、たがいに尊重し合う心情を養ってもらうためであった。

1週間のうち4日間は各クラス1時間の割合で日本語授業の助手を務め(3学年で12クラス)、残りの3日間は朝9時から夜遅くまで野球部員の指導に当たった。韓国の高校生は、野球部の生徒はもちろん、一般の生徒もたいへん素直で食欲に学ぼうとしていた。積極的に日

本の高校生のことや歴史、文化などを知ろうとする彼らに、私は好感を持った。野球部の生徒は、自分たちが習ってきた野球の技術や戦術に強い自信と誇りを抱きながらも、違う野球も学びたいという向上心が強く、休みの前日の練習では時間を忘れて野球談義に花を咲かせた。当時の教え子たちがプロ野球のスター選手になった今も、彼らからときどき便りがあるのが嬉しく、教師冥利を感じさせてくれる。

滞在中に沖岩高校の生徒150名(各学年50名)に10項目のアンケートを実施したことがある。全員が真剣に答えてくれたことに感謝すると同時に、彼らが常に自分の将来を見つめ、自国の歴史・文化・政治に高い関心を持って、一日一日をたいせつに、たくましく生きていると感じた。そして、日本人も韓国を知らないが、韓国人もまた日本の素顔を知らないことを痛感した。

アンケート結果の一部を紹介する。各項目とも最多回答のみ。数字は回答数。()内は筆者の感想である。

将来の目標: 事業家 48名(高学歴志向が強く、独立心が旺盛である); 最も尊敬する人物: 両親 52名(「儒教の国韓国」を象徴している); ぜひ日本人に見てもらいたい所: 板門店 22名(韓国を理解するために必要である); 日本のイメージ: 経済大国で生活水準が高く、学びたい国 28名(ほぼ同数の生徒が、日本に対する拒絶反応を示した。日本に関する韓国人の心は複雑であり、簡単に図式化するわけにはいかない)

私はもう一人ではない

尹美暻 윤미경
(佐賀県立
唐津商業高等学校)



韓国語の授業を担当してから7年になりますが、これまで自分一人でどうしようかと悩んでいました。授業のテキストや方法などまるっきり手さぐりの状態で、学生もな

ぜ韓国語を勉強しなければならないかという疑問をもち、私自身も十分な回答ができないでいました。高校生に韓国語を教えるためには、学生が韓国語を勉強することに、納得して自信と誇りをもちせなければならないと考えて、学生と楽しく、元気にいっしょになって勉強していこうと、教室でなんども学生たちと話し合いをしました。

韓国語は自分の母国語ですし、隣国の言葉を習うことによって隣国の文化・歴史・習慣を知り、そのことによって自国の本当の姿を客観的にみる能力を身につけるために、韓国語を高校生の時から勉強するのは非常によいことだと考えてはいました。しかし、なにか自分に納得ができない部分もありました。ほんとうに学生のためになっているのか。学生はなにを考えているのか。教える側と教わる側、さらに学校側との間に大きな溝のようなものを感じています。

必修科目としての韓国語、対外的には非常に先駆的で進んでいるように見えますが、本当にこれでいいのか。学生たちが自ら望んでいるのか。勿論、教える側の立場を利用して強圧的にやれば、表面上は問題ないのですが、学生一人一人の心の中に入っていこうとすると、厚い壁にぶち当たります。

今度の研修(99年8月)では、同じ多くの悩みをもった多くの先生と出会い、自分の心配や苦労は諸先輩に比べて甘いものであったと反省して、また同輩と悩みを話し合うことができました。英語教育と異なり、韓国語教育はまだまだ広く認知されておらず、先生同士のネットワーク・共同研究も始まったばかりです。教養として身につける大学の韓国語教育とは一線を画して、もっとも情感ゆたかな高校生に韓国語をどのように教えるか、これは本当に難しいことだと感じながら、東京を後にしました。しかし、私はもう一人ではありません。多くの先輩や友人と出会いました。これを私の一歩として、みなさまとともに歩み続けたいと思います。

ネットワークの会報巻頭に、みなさんの原稿をお寄せください。文字数は本紙1ページに相当する約1,600字(原稿用紙4枚)以内を目やすとします。和文・ハングルいずれでも結構です。顔写真もお送りください。なお、原稿料は無料とさせていただきます。

李連熙 이연희
(沖縄県立
那覇国際高等学校)



99年8月の研修は一人寂しく(?)沖縄の高校で韓国語を教えていた私にとって、とても励みになる時間でした。まず、日本全国にとっても多くの高校が韓国朝鮮語を教えていることと、先生方も多くいらっしゃることにびっくりしました。教員の構成も、私のように韓国から最近来た方、在日同胞の先生方、また驚いたのは日本人の先生が多くいらっしゃったことでした。

韓国に興味を持ってくださる方がこんなにたくさんいらっしゃると思うと、とても嬉しくなりました。沖縄で暮らしていると、昔からの中国の影響でしょうか、沖縄の人の多くが韓国のことを中国に間違えるので心細かったのですが、研修を通して韓国の理解者が多くいることがわかり、とても心強く思いました。

印象的だったのはブロック会議でした。全体会議とは違う和気あいあいな雰囲気(!)最高でした。教育現場でいかに効果的に韓国朝鮮語や文化を教えるかについて、現場でのいろいろな悩みも話し合うことができました。地域ごとにそれぞれ問題があり、授業の取り組みも違うことに気づきました。クラスに在日2世、3世の生徒がいたり、在日同胞なのに韓国朝鮮語の先生をわざと避けたりする生徒がいるという話は沖縄にはないことで、先生方のご苦勞が改めてわかりました。

沖縄の場合、本土と比べて在日同胞の歴史が浅く、県民の在日韓国朝鮮人に対する偏見があまりないので、私には実感できない悩みでしたが、韓国語を教えることはそんなに簡単ではないということがわかりました。恥ずかしいことに、私自身、在日同胞のことがよくわからなかったもので、今回の研修を通していろいろと勉強しました。これからは在日同胞の歴史も取り入れ、沖縄の生徒にも幅広い情報を与えたいと思います。

研修のとき話題になった「高等学校韓国朝鮮語教育

ネットワーク」の立ち上げと、「高等学校韓国朝鮮語教科書」の制作は大変興味深いものでした。韓国朝鮮語を教えている先生方とのネットワークを通しておたがいの情報交換を活発にすると、教育の現場にも生かせる情報が得られ、教員同士や生徒同士の交流もできると思います。また、韓国朝鮮語の教科書を作り、より良くて効果的な授業ができるようになればと思います。早く実現できるように願い、私も一助になればと思います。

11月の13-14日には沖縄県立国際高等学校で学園祭がありました。研修会の後、いただいたエネルギーを発揮し、生徒と頑張っています。生徒は10人しかいなくても、1学期よりは態度も良くなって、やる気も出て来たようなので、わりと授業がしやすくなりました。11月からは県の予算で第2外国語の授業に日本人の先生を雇い、ティームティーチングをするようになり、韓国語の授業にも韓国語のできる先生がいるのでとても楽しみです。その先生と協力し、より良い授業に励みたいと思います。2000年の研修はその先生も一緒に研修に参加できればいいですね。

つたない日本語で簡単に東京の研修を振り返って感想を申し上げました。いろいろとお世話をしてくださった皆様と先生方に改めてお礼を申し上げます。ことしは、私も2回目の参加にふさわしい問題意識と話題を持って研修に参加したいと思います。

皆様、8月にお会いするまでファイト! 파이팅!

会報 芻言 の題字デザイン案を募集します

本紙の前身は高等学校韓国語教師研修会「世話人会だより」芻言(ムルギョル、99年4月発行)です。このたびネットワークの会報を発刊するに際して、同じ紙名を引き継ぐことにし、題字デザイン(芻言を複数組み合わせ、波形を表現したつもりです)も「世話人会だより」を踏襲しています。

ネットワークの活動は、地域ごとに独自の展開を見せ始めています。西日本ブロックにおける定例活動の定着、南日本ブロック通信の発行、東日本ブロック会員間のEメール・ネットワークの発足など、複数の動きが噛み合ってきたこの機会に題字デザインを一新いたしたく、デザイン案を募集いたしますので、会員のみなさん奮ってご応募ください。締切りは7月末日とし、応募作をブロック代表間で検討した後、8月の研修会の席で決定したいと思います。

第3回高等学校韓国語教師研修会
の開催予定

会期： 8月18日（金）～20日（日）
会場： 大学セミナー・ハウス（東京都八王子市）
主催： 駐日韓国文化院、国際文化フォーラム
運営： 高等学校韓国朝鮮語教育ネットワーク
参加費： 15,000円（宿泊費・食費として）

*研修会に参加するための往復の交通費は主催者が支給します。問い合わせ先：国際文化フォーラム

第1回南日本ブロック研修会の案内

来る2月11日（金）と12日（土）、熊本県立菊池農業高等学校の寮で1泊2日の宿泊研修会を開催いたします。内容は各学校の授業実践報告、韓国朝鮮語の語学研修などを予定しています。東日本・西日本ブロックのみなさんもぜひご参加ください。

お問い合わせは、菊池農業高等学校の馬場純二または古財弘幸までお願いします。

tel. 0968-38-2621（菊池農業高等学校）

e-mail. baba_jun@muc.biglobe.ne.jp

高等学校韓国朝鮮語教育ネットワークブロック代表

所属学校、学校住所（※自宅）等、個人メール・アドレス

東日本ブロック：

西澤俊幸（長野県立松本蟻ヶ崎高校 松本市蟻ヶ崎
1-1-54 tel. 0263-32-0005 fax. 0263-37-1072）

nishi-t@nag.avis.ne.jp

山下誠（神奈川県立岸根高校 横浜市港北区岸根町
370 tel. 045-401-7872 fax. 045-402-8406）

yama-han@mx1.harmonix.ne.jp

西日本ブロック：

任喜久子（大阪府立阪南高校 大阪市住吉区庭井
2-18-81 tel. 06-6692-0356 fax. 06-6692-3202）

imihija@mx6.nisq.net

方政雄（兵庫県立湊川高校 神戸市長田区寺池町
1-4-1 tel. 078-631-2983 fax. 078-691-7406）

pangaaaa@poporo.ne.jp

南日本ブロック：

李菊枝（崇徳高校ほか韓国語講師 *広島市西区山田
新町 2-11-9 tel./fax. 082-271-7893）

mukuge@ddt.or.jp

馬場純二（熊本県立菊池農業高校 菊池郡泗水町大字
吉富250 tel. 0968-38-2621 fax. 0968-38-6707）

baba_jun@muc.biglobe.ne.jp

[東日本ブロックの会員間でことしの1月末に始まったe-mailのやり取り（本紙5ページ参照）から、東アジア言語によるメール送信に関するメモを転載します]

<http://world.std.com/~fujimoto/>

表紙から更新履歴をたどっていくと、韓国語HPやメールの送受信についての記事があります。

<http://www.wcsnet.or.jp/~ryu/pro.htm#yonpir>

フリーの韓国語エディタのプログラムが公開されています。サイズが大きいのでダウンロードに時間がかかります。記事やプログラム自体はWin95+IE3を前提に書かれています。IE4、IE5でも問題ないと思います。IE4以降を使っているのでしたらヘルプの製品更新から韓国語フォントを手に入れることができます。

ここに上げたHPやプログラムは、このサポートキット（Multilanguage Support）で韓国語フォントをインストールしていることが前提のようです。サポートキットのダウンロードは1-2分ですむので韓国語HPの閲覧のためにも入れておくと思います。発信：内山修一（山梨県立塩山高校ほか中国語講師）

高等学校韓国朝鮮語教育ネットワークへの参加を希望される方は、もよりの地域ブロックの会員、ブロック代表あるいは事務局にメール（または電話等）でご連絡ください。日本の高等学校における韓国朝鮮語教育に関心を持ち、その発展と充実を願う一人でも多くの方の参加をお待ちしております。함께 합시다.

高等学校韓国朝鮮語教育ネットワーク会則

1. 名称

本会の名称を「高等学校韓国朝鮮語教育ネットワーク」とする。韓国朝鮮語という用語は、日本においてハングル・韓国語・朝鮮語などと呼ばれている言語の総称として用いる。

2. 目的

本会は、日本の高等学校において韓国朝鮮語教育に携わる教職員間ならびに関心を有する者相互の情報交換をはかり、研修ならびに研究活動を通じて韓国朝鮮語教育の発展と充実に資することを目的とする。この目的に沿って、地域的なブロック単位の活動を基盤にしなが、全国的なネットワーク組織を構築し、維持することをめざす。

3. ブロックの地域区分と活動内容

全国を東日本（北海道、東北、関東甲信越）、西日本（北陸、東海、近畿、中国・四国の一部）、南日本（中国・四国の一部、九州、沖縄）の3ブロックに区分し、それぞれ拠点となる高等学校を選定して事務局を置く。各ブロックは、会員の要望と地域性に応じた独自の活動を展開することができる。

4. ブロックと全国ネットワークの事務局

各ブロック会員の互選により、ブロックごとに代表2名を選任する。代表の任期は1年とし、再任を妨げない。年度途中でブロック代表に欠員が生じた場合は、当該ブロック会員の協議に基づいて補充する。ブロック代表は、定例活動を通じてブロック内の会員間ネットワークを形成し、維持するとともに、他のブロックとの情報交換ならびに連携をはかる。

全国的なネットワークを維持するため、ブロック代表全員によって構成する全国ブロック代表者会議を設ける。当分の間、財団法人国際文化フォーラム内に全国ネットワークの事務局を設置し、事務局機能を担うこととする。

5. 事業内容

本会の事業内容を次のとおりとする。

(1) ブロックごとの定例活動の実施

(2) ブロック総会ならびに全国ブロック交流会の開催

(3) 共通教材の開発、ガイドラインの作成、教科書の作成などの事業の実施

(4) 教育制度に関わる条件整備事業の実施

(5) 関連団体との連携事業のほか、2.の目的達成のために必要な事業の実施

(6) 会報の発行

6. 会員の資格と入会手続き

高等学校の韓国朝鮮語教育に携わる者および本会の目的に賛同する者は誰でも会員になることができる。また、本会の事業内容を充実させるため、個人または団体の賛助会員を置く。入会手続きは、所属するブロックの代表（事務局）または全国ネットワークの事務局を通じて行なう。

7. 会計と会計報告

本会の経費は会費、賛助会費ならびに寄付金でまかなう。会計年度は4月1日から翌年の3月31日までとする。会員は翌年度の年会費として3,000円を毎年3月末日までに納める。納入は、所属するブロックの代表（事務局）または全国ネットワークの事務局を通じて行なう。

会計監査は年度ごとに全国ブロック代表者会議が行い、会員に報告する。

8. ネットワーク全体に関わる事項の変更等

会則の変更または廃止、ブロック区分の変更、会費の変更など、ネットワーク全体の運営に関わる事項の変更等については、会員の要望をふまえながら、全国ブロック代表者会議の構成員の合意に基づいて行われる。変更された内容等は速やかに会員に知らせる。なお、本会則に定めのない事項については、全国ブロック代表者会議で協議を行い、同会議の構成員全員の合意に基づいて定める。

9. 本会の発足と会則の発効

本会は1999年8月19日、第2回高等学校韓国語教師研修会において発足した。本会則は各ブロックの承認を経て、1999年10月9日に発効した。